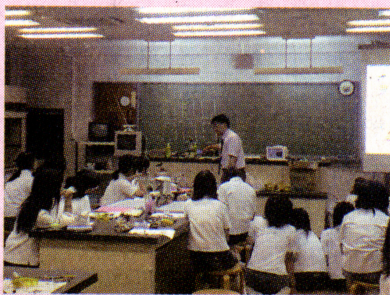


★14 山陽女子中学校・高等学校

山陽女子中学校・高等学校では、ラベルワーク（注）を導入して、生徒自らが考え、行動する力の育成をエネルギー教育に生かしている。当日は、エネルギー教育の一環として、島根大学の重松宏武准教授が外部講師として招かれ、中等部3年生を対象にエネルギー教育が実施された。授業では、発電のしくみやエネルギーについて講義を受けた後、手回し発電機や発電された電気を貯め、動力とする玩具等を用いた学習が行われ、生徒たちは発電の大変さを体感することとなった。授業後は感想をラベルに記述し、提出することが宿題とされた。これは後に生徒間での意見交換や、自らの思考プロセスを再確認するために使用される。

授業の2か月後の鳥取北条砂丘の風力発電の見学の際は、地球温暖化に向けて自らができることをテーマとして、ラベルワークが実施され、生徒たちは実践できることを自らプロジェクト化している。こうして考案された資源を大切に作るプロジェクトは現在も継続されており、校内の学習発表でも活動が発表された。同校の活動は3月23日（日）の「親子で楽しむ エネルギーフェスタ 2008」（経済産業省資源エネルギー庁他 主催）でも発表される。

（注）ラベルワーク：日本教育大学院大学・林義樹教授が考案されたラベルを用いた参画教育の技法。



島根大学・重松准教授による出前授業